

《仮称》三条市・只見町連携戦略会議創設に 三条市長と只見町長が合意!!



▲合意に至り握手をする目黒町長と国定市長(右)

国道289号(八十里越)は、現在まで早期全線開通を目指し、商工団体や行政が中心となって活動を展開してきました。

今回「(仮称)三条市・只見町連携戦略会議」の創設について合意に至った経緯は、三条市の国定市長が全線開通後を見据えて次の段階に進む時期になったという見解を示され、目黒町長がそれに応えて11月6日に三条市役所を訪問し、合意に至ったものです。

国定市長からは、「ウィンウインの関係(双方に利益があるという意味)で行きましょう。」と早速賛意を示され、ものづくり三条と只見町の工場(こうば)や、高校新卒者の進路の話や救命救急センター並みの新たな総合病院の話にも及びました。

今後は、「八十里体感バスツアー」の夏季の落ち込みにテコ入れし、1年でも早い開通に繋げるとともに、観光や産業振興、教育など幅広い分野にわたって一体的な取り組みを行い、近い将来民間事業者などを主体とする「三条市・只見町連携戦略会議」に格上げしたいという構想を描き始めているところです。



▲さらに多くの皆さんに参加して欲しい通り抜けイベント

(仮称) 三条市・只見町連携戦略会議の創設について (案)

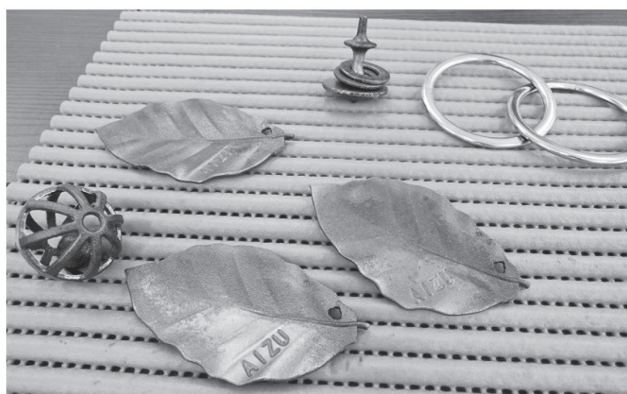
【テーマ】国道289号八十里越全線開通後の両市町のあり方を協議・共有

- 商工団体や行政のみの交流 (現在) から次を見据えたフェーズへ (三条市長ご挨拶から)
- 只見町は三条市のまちづくりを学びながら、地域振興を図りたい

1. 三条ものづくり学校・・・中小企業大学校三条校との更なる連携

【只見町の考え】

- ・地元高校生 (只見高校普通科・南会津高校普通科) の地元定着を言葉では呼び掛けているが、具体的な誘導策がありません。
- ・一方、町内にある工場 (こうば) は雇用したくとも技術力がない新卒者の採用に戦力面の不安を持っています。具体的には、育成機関や経費等が課題となっています。
→三条ものづくり学校への就学指導と合わせ、町独自の助成制度創設を検討します。



◀▲会津工場は、世界中で唯一独自の鑄造技術「Hプロセス工法」を導入している只見町を代表する工場のひとつです

2. スマートウェルネス・・・「明るく 楽しく 元気よく」

【只見町の考え】

- ・現状は、超高齢化を「長寿を手に入れた証拠」と受け取れず、悲観的に捉えています。町の振興計画でも高齢者は75歳以上とうたっていますが、具体策がないので実感できません。また、介護ケアばかりが話題になり、連れだつて散歩に出かける等 (買い物、ミニコンサート、趣味の活動・演劇等) の環境整備や仕掛けづくりが不十分です。
- ・イベントは観光商工課、介護予防は保健福祉課と意識が別々で、一体的に捉えるスマートウェルネスという概念を定着させる努力が必要と感じています。

3. 医療機関の連携・・・三条総合病院 (一般199床・人工透析55床、計254床)

【只見町の考え】

- ・町内には国民健康保険朝日診療所 (19床) のみです。
- ・二次医療機関は、南会津町にある県立南会津病院 (98床) まで車で約1時間、会津若松市の総合病院 (竹田総合837床、会津中央887床、会津医療センター226床) まで車で1時間半～2時間かかります。

4. まとめ

- ・当然このほかにも多岐にわたる (観光、教育等) 連携を必要としています。
→「(仮称) 三条市・只見町連携戦略会議」を設け、相互に勉強会を重ね、地域振興の具体的取り組みにつなげたいと考えるものです。

※只見町中心市街地活性化事業を戦略会議の下 (もと) に位置付け取り組む